

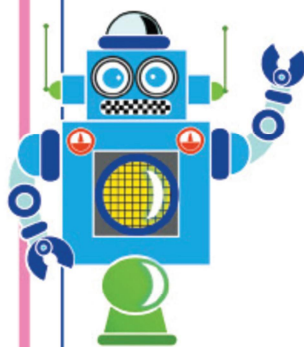


## (4) 青塚古墳

九州産の石でできた石棺のある帆立貝形墳

Q1 青塚古墳とは、どんな古墳なの？

A1 一ノ谷池近くの標高30mのところにあります。



出土した土器や埴輪から、つくられたのは5世紀後半ごろと考えられています。青塚古墳の特徴は、三豊・観音寺地域では数少ない帆立貝形の古墳であるということです。

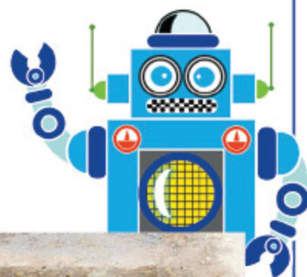


現在の青塚古墳



Q2 青塚古墳からは、どんなものが出てきたの？

A2 土器や埴輪のかけらが出てきています。また、古墳の周りに置かれていた埴輪の列も出土しており、できた頃には円筒埴輪が並べられていたことが分かります。さらに、石室の中に置かれていた石棺のかけらも出てきました。石の材質は、丸山古墳と同じ九州産の阿蘇石で、九州とつながりがあったことが分かります。また、発掘調査から、周りにはほりをめぐらしていたことも分かりました。



青塚古墳墳丘模型



発掘された埴輪列